

丹波地域ビジョン委員会情報誌

たんばビジョン通信

第27号
平成28年3月発行

発行:丹波地域ビジョン委員会 〒669-3309 丹波市柏原町柏原688 TEL(0795)72-0500(内217) FAX(0795)72-3077

平成
27
年度

丹波の森夢会議開催！ 「たんばは、やっぱりええでえ！」



委員長あいさつ



会場を埋めつくした参加者の皆さん



高校生のビジネスプランの発表



企画部会長による趣旨説明



団体のパネル展示

2月20日(土)丹波市立柏原住民センターにおいて「平成27年度丹波の森夢会議」を開催しました。地域の未来を担う高校生たちに若者ならではの地域課題解決に向けたビジネスプラン、地域資源を活用したビジネスプランを発表していただきました。

また、第7期丹波地域ビジョン委員会の2年間の取組発表や、様々な分野で活動する団体の皆さんの活動をPRするパネル展示なども行い、様々な世代が交流し、ネットワークを広げる機会となりました。今回のテーマは「たんばは、やっぱりええでえ！」ふるさとを愛し、語る上で欠かせないたんばの「ええでえ」を再発見できた有意義な会議となりました。

2年間の活動

グループたんばなう

私たちの活動は、今回で2期4年の活動となりました。未活用の地域資源を探し、商品を流通させることを目標としていました。そこで未活用の「柚子」に着目して商品を開発し、「丹波無農薬柚子胡椒」が完成。東京の高級スーパーへの販売ルートを確認することに成功しました。



宝探しフォーラム

また「ローマ法王に米を食べさせた男」で有名な高野誠鮮氏をお招きし、新たな商品企画のアイデアを生み出す機会となる「宝探しフォーラム」を開催することが出来ました。住む地域も、世代も、考え方も違う人たちが力を合わせ、ゼロからイチをつくる過程に関わることで得られる学びこそが、ビジョン委員活動を通じて得られる貴重な宝物であったように思います。

里山deふれあいグループ

私たちのグループは、初期に策定した目標に添って2年間の活動を進めた結果、グループの参加委員の減少にもかかわらず、里山体験実習や先進地視察等で委員の技術、知識を高め、都市住民と地元住民が里山でふれあい交流するイベントを2回開催することが出来ました。

最近、里山の荒廃が危惧されている中で、里山の景観、資源を活かした体験型のイベントはアンケートの声などからも好評を得て、里山保全への気運が高まっていると感じ取れました。



里山ふれあい広場

これを機に、今後の課題として各地域団体等が自主的に里山を守り、地域資源を活かした里山環境保全への取組強化、普及を図っていくことが重要であると考えます。

たんば菜響グルメグループ

2年間開催した有機野菜の栽培塾「丹波の里塾」には、丹波・篠山をはじめ、兵庫や大阪の都市部から、初心者からベテランまで、年齢も幅広くたくさんの方に参加していただきました。1年目は基本的な内容、2年目はレベルアップした栽培法を学んできました。また、グループとして丹波の食材を使った料理を考え、2つのイベントにも参加。



秋の味覚フェア

「秋の味覚フェア」では、作りたてのポン栗、丹波白雪大納言小豆を使った紅白逆さぜんざいを販売しました。「丹波地域の農業を熱く語る会」では、里芋とお米の栗あん入りおはぎ、紅白逆さぜんざい、ゆず風味の大根酢漬のレシピを提案し、みんなで試食しました。2年間を通じて、「食」と「農」で丹波の魅力を発信することができました。

高齢者の生きがいつくりグループ

この2年間、①高齢者の健康づくり、②年々減少している老人クラブの実態と高齢者の意識調査、③高齢者と若者の交流の3点を中心に取り組むことができました。健康づくりでは、ゆっくり歩きと速歩きを交互に繰り返す「インターバル（間隔）速歩」の講演会・実践講習会を企画し、合わせて200名近くの方が参加されました。



高齢者と若者の交流事業

意識調査では、約700名の熟年者からアンケートの回答をいただき、結果を市の関係部署等にも報告しました。

若者との交流では、柏原中学校と地元の老人クラブで語り合いを中心に有意義な交流ができましたが、今後地域を支える中学生・高校生と高齢者の交流の場を各地域で作っていく必要を感じました。

を振り返って

青少年グループ きずな

ひきこもりや不登校の当事者、家族を支える地域ネットワークをつくることを目標に、丹波市で



ひきこもり講演会

不登校・ひきこもりの居場所やフリースクールの活動をしている「子育て親の会」と、篠山市で「遊び村」を運営している NPO 法人「結」のひきこもり経験のある若者たち

と一緒に活動を続けて来ました。

若者の居場所「TAMARIBA」や、たんば寺子屋「無量塾」の運営支援を行なうとともに、講演会や研修会に参加したり、兵庫ひきこもり相談支援センター丹波ランチ事業「みんなが主役」にも参画し、当事者の理解を深めてきました。

今後は地域の関係機関にもっと積極的に働きかけ丹波地域として連携した取組ができないか検討したいと思っています。

グループ夢ジョッキー

県立氷上西高等学校で、様々な生き方の大人たちが自らの体験を語り、自分の意志で選んで生きていけばどんな夢も叶うという事を伝える「夢授業」を2年連続で開催させていただきました。



はじまりライブラリー

ある生徒さんの「私も伝える側になりたい。」という言葉、そしてある先生の「私たちでは教えられないことを教えてもらっている。」という言葉。この二つの言葉に私たちが活動する意味の全てがある様な気がします。

今年は高校生へのメッセージ集「はじまりライブラリー」も制作し、丹波地域の高校3年生へ届けさせていただきました。

今の学校教育を否定するのではなく、社会にいる大人が足りないと感じる部分を足していくことが出来る仕組みとして、活動を続けていきたいと思えます。

グループさるが出た!!

丹波地域ビジョンの将来像「安全安心なたんば」を目指して2期目の2年間実践活動をさせて頂きました。紙芝居「火のない所から火が出た」とトラッキング現象再現装置を使った防災啓発、紙芝居「ほめほめさぎにご用心」を使った特殊詐欺に対する防犯啓発と、内容を絞って啓発活動を行ってきました。

自治会の住民学習会などに呼んでいただくようになり、平成27年度は14回の依頼をいただき前年比倍増となりました。



自治会での啓発活動

30分から60分ぐらいの啓発活動ですが、気軽に聞いていただけ、分かりやすい防災防犯啓発ができたと思っています。

今後もちょっと面白い啓発活動を続け、丹波地域の安全安心に少しでも役立てたらと考えています。

男女共同参画グループ

2年間を通じて丹波地域の自治会において紙芝居「さんかくちゃん」、「家庭生活における男女の役割」、「地域活動における男女の役割」を活用した啓発活動に取り組んで来ました。



自治会での啓発活動

また、勉強会や視察研修でグループメンバーの男女共同参画に対する理解を深めながら、新しい啓発活動の取組にも積極的に挑戦してきました。

各自治会の人権学習会の題材に取り上げていただくことも多くなり、啓発活動の回数も徐々に増え、丹波地域の多くの皆さんに私たちの活動を知っていただくことができました。

自分たちも楽しみながら誰もがいきいきと暮らせる丹波地域に向けて活動することができました。

丹波の森夢会議の主な内容

高校生によるビジネスプランの発表

丹波地域の6校の高校生から、自分たちで考えたビジネスプランを発表していただきました。丹波地域で思いさえあればビジネスを立ち上げることができる。と大人たちに熱く語りかけてくれました。



発表する高校生

当日発表いただいた高校生のビジネスプラン

県立氷上高等学校	丹波の起爆剤「白雪大納言小豆」の普及
県立篠山鳳鳴高等学校	若者が創る明るいふるさと
県立氷上西高等学校	まるっと手作り丹波布
県立篠山産業高等学校 丹南校	生き物とゆかいな仲間たち（観光ツアー）
県立柏原高等学校	空き家活用策「サテライト“寺子屋”」
県立篠山東雲高等学校（特別出演）	地域資源で環境創造～竹チップで未来を変える～

金澤副知事コメント

金澤和夫兵庫県副知事からは、期待どおりの発表だったと各高校の発表に対する感想と、「人口が減少する中、この地域にとどまって欲しい。とは言わない。羽ばたく人は羽ばたいて欲しい。大事なのは地域を出て行く自分のかわりの人を呼び込むこと。地元のことをよく知り、本当に好きになって自分の言葉で地元をPRし、Iターンなどを希望する人たちに情熱的に語りかけて欲しい。」とのコメントがありました。



コメントする金澤副知事

交流タイム

パネル展示をしていただいた13団体の活動概要について紹介した後、それぞれの団体のパネルを見ていただきながら、高校生、団体の皆さん、地域の皆さん、ビジョン委員など参加者全体での交流タイムとなり、ネットワークを広げていただきました。

最後に柳瀬厚子丹波県民局長から「今日は、高校生をはじめ様々な年代の方にお集まりいただき、年齢にかかわらず交流していただくことができたのではないかと。人と人がつながり交流ができる地域。丹波地域は「ええでえ～」と感じていただいたと思う。皆さんの力を地域づくりに活かしてほしい。」とのあいさつがあり、なごやかなうちに閉会を迎えました。



参加者からの感想

- 高校生の行動力にびっくりしました。すごい！丹波のこれからは若者にかかっていると思います。
- 自分たちがビジネスプランを考えて「地元には何かできる事はないか」と動いていくことが大事ということを知りました。こうして、他の高校の発表を聞くことが出来てよかったです。
- 地域っていいなと思いました。ふるさととは大事だと思いました。

※当日の様子は丹波県民局ホームページでも紹介していますのでご覧ください。

退任シヤクシ

私たち第7期丹波地域ビジョン委員会は、平成26年4月から8つの実践活動グループで仲間と協力しながら、様々な活動に取り組んでまいりました。

地域内外の多くの方にもご協力いただき、充実した活動ができたことに感謝申し上げます。

私たちの取組がひとりでも多くの方に伝わり、活動の輪が広がり、地域全体で住民が中心となった地域づくりへとつながっていくことを願っております。

第7期丹波地域ビジョン委員一同

●丹波地域ビジョンについては、丹波県民局ホームページをご覧ください。

URL <http://web.pref.hyogo.lg.jp/area/tanba/vision.html>

丹波地域ビジョン委員会事務局 兵庫県丹波県民局県民交流室総務防災課
〒669-3309 丹波市柏原町柏原 688
TEL 0795-72-0500 (内線 217) FAX 0795-72-3077

